

「石地」の根量増加を促す 幼果期の土壌水分管理指標

ウンシュウミカン「石地」は、幼果期（満開後から7月まで）の土壌水分を湿潤（pF1.8以下）で管理することで、一定品質の果実を生産しながら新根伸長量を増加できます。

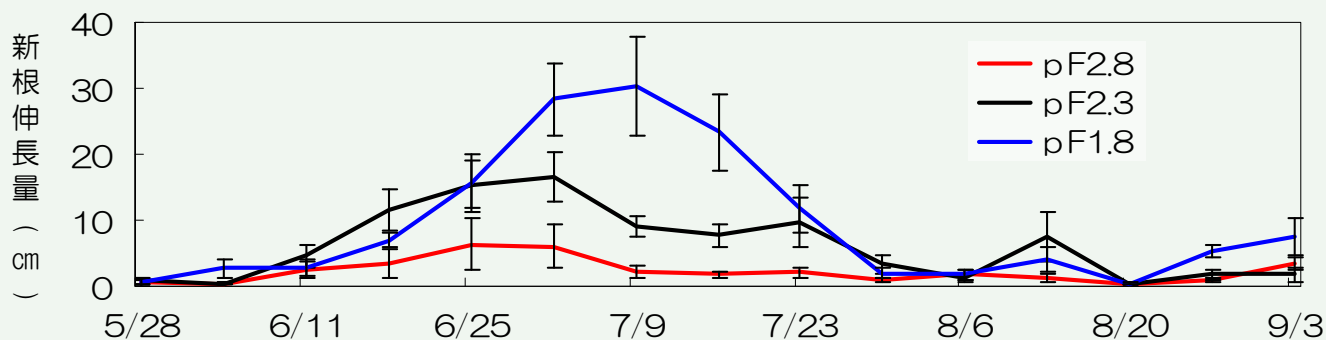


図1 幼果期のかん水管理がウンシュウミカン「石地」の新根伸長に及ぼす影響（2008年）
注）5月19日（満開2週間後）～9月10日（果実肥大初期）に設定したpF値でかん水を実施。10×15cmの観察窓に見られた新根を一週間間隔で計測。（縦線は標準誤差,n=10~12）

- 1) 新根伸長量は、生理落果終了後の7月上～中旬にかん水による影響を最も大きく受け、幼果期（満開後7月まで）の土壌水分管理指標をpF1.8とした場合に優れ（図1）、pF2.8とした場合に劣る。なお、累積新根伸長量は土壌水分管理指標をpF1.8とした場合に、pF2.8の6.5倍となる。
- 2) 地上部乾物重は、幼果期の土壌水分管理指標をpF1.8とした場合に大きく、樹体生育が優れる（データ略）。
- 3) 果実品質は、幼果期の土壌水分管理指標をpF1.8およびpF2.3とした場合に、pF2.8よりも果実重が重く、酸度が低く優れる（表1）。また、糖度は12° Brix以上あり、高い水準にある。

表1 幼果期のかん水管理がウンシュウミカン「石地」の果実品質に及ぼす影響（2008年）

処理区	果実重 (g)	果径指数 (%)	果肉歩合 (%)	果皮色 (a値)	比重	糖度 (° Brix)	酸度 (%)
pF2.8	50.8 a	120 a	77.2 a	38.5	0.97 b	18.1 b	2.41 b
pF2.3	108.2 b	127 b	81.5 b	39.4	0.91 a	13.2 a	0.92 a
pF1.8	112.0 b	122 ab	81.3 ab	36.2	0.91 a	12.3 a	0.96 a

注）処理終了後、収穫・果実調査日（11月27日）までは全てpF2.8で管理。果皮色は測色色差計による果頂部a値。同一項目において、異符号間に有意差あり。（Tukey-Kramer, $P \leq 0.05$, $n=4\sim6$ ）